

ほろりん

①72 ちゃんまげ



秋の訪れを告げる彼岸花

秋の訪れを告げる彼岸花が町中に咲き誇りました。

野方地区では、黄金色に色づき収穫を待つ稲穂の傍らに咲いた彼岸花に、蝶が蜜を吸いに飛んできました。

今月の表紙

薩摩郷句 兼題「一杯」

茶一杯が歸路の事故を逃がらけつ

(唱) 事故んニユースい 後堰つがしつ

北村 虎王

孫見せが今は精一杯な親孝行

(唱) 何もいらんち 爺婆あ喜つ

諸木 小春

認知症ん母を叱いかて胸一杯

(唱) 叱った後かあ 止まらん涙

諸木 美舟

笑れ上戸が一杯飲んだや騒々し

(唱) 一時黙れち 酔くろた親父

二見愚楽満

腹一杯大て事吐えた飲んだ後

(唱) 自慢が済んだや ごろつち寝つ

高辻 満天

大崎短歌会

大津波千年先と夕涼み忘れし頃に災害は来る

溝口 稔

足どりも軽くシャキシヤキ田の神に一礼しつ

つ友歩みゆく

宮原 のり

お義姉さんきつといいところよ待っててね涙の

むこうに遺影かすみぬ

児玉 チツ

お陽さまに向かいて咲きしひまわりはかぐる

き種子となりてうつむく

高瀬 睦子

ひと口に「がれき」と言うも原形は生活の糧

柱でありしに

馬場みさ子

大崎俳句会

たてがみの靡く軽さや秋の駒

宮下 のし

暮れなずむ峽の段畑蕎麦の花

折田 スズ

風立つや縫い舞ひゆく揚羽蝶

宮脇 洋子

秋茄子を使ひ嫁女や朝厨

内村美恵子

コスモスや優しく揺れる丘の上

坂元つる子

千草の匂ひやわらか今朝の秋

益倉 睦美

人権啓発シリーズ②①

あなたの当たり前が、誰かを傷つけているかも。

～障害者の人権について考えるための『気付き』のヒント～

- 障害のある人は気の毒だ。
- 補助犬の飲食店への入店は断るべきだ。
- 障害者が一般の会社で働くのは難しい。
- 苦労するから子どもには障害のある人とは結婚してほしくない。

知らないこと、無関心でいることが、差別につながっていることがあります。「どう接していいかわからない」という声をきくことがありますが、まずは「何かお手伝いできますか?」と声をかけることから始めましょう。